

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録			
招 集 期 日	平 成 2 8 年 8 月 1 8 日 ( 木 )		
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室		
開 会	8 月 1 8 日 午 前 9 時 3 0 分		
閉 会	8 月 1 8 日 午 前 1 1 時 2 0 分		
教 育 長	戸 ヶ 崎 勤		
教 育 長 ・ 委 員  出 席 状 況	戸 ヶ 崎 勤	出 席	
	仙 波 憲 一	出 席	
	吉 田 辰 行	出 席	
	鈴 木 晃	出 席	
	土 肥 美 奈 子	出 席	
説 明 員	鈴木教育部長、渡部教育政策室長、栗津副参事、熊谷副参事、		
	星野学務課長、教育政策室 山根担当課長、細井学校給食課長、		
	津田生涯学習課長、教育総務課 諏訪村主幹、教育政策室 川和田主幹		
書 記	教育総務課総務担当 山本主任		
傍 聴 人	1 人		

## 会議の経過及び結果

教育長

昨日、全国学力・学習状況調査の結果が送られてきました。

過去を振り返ると、明治初めに各地に学校ができた頃、成績や及第落第について校門前で公開するなど、生徒や親を競争の舞台に引きこむような手荒なことをしていたようです。競争を知らない江戸時代から、いきなり試験地獄に放り込まれた庶民はさぞ驚いたことでしょう。その頃学校で学んでいた森鷗外も「人生の最も苦なるものは学校の試験に若くはなし」の言葉を残しており、鷗外のような秀才でも成績競争を苦々しく振り返っています。

私も委員を務めている、全国学力・学習状況調査は今年で10年目を迎えますが、調査目的は大きく2つあります。

- ・全国の子供の学力実態を把握分析し、国都道府県の行政施策を検証すること。
- ・学校の設置者である自治体の教育施策の検証と学校の指導改善につなげること。

この2つの目的は当初から変わっていませんが、調査に毎年約50億円が使われており、調査方法をめぐり議論され続けてきました。前者を目的とするなら抽出でも可能ですが、後者が目的なら全ての学校で実施する必要があります。

全国規模の学力テストは、1950～60年代にも行われ、学校や地域間の競争が激化し、成績不振者を休ませるなどの社会問題を招いた反省から、文部科学省は「競争が目的ではない」と再三強調してきました。しかし、実際は、行事を廃止・縮小したり、都道府県レベルで過去問対策をしたり、学校別の順位や校長名を公表したり、さらには、入試の資料として使用したり、中には給食準備時間や昼休みも補習に充てるなどの動きも出ているという話も聞きます。

現在開催中のオリンピックでも、IOCには国別メダル数のリストは

	<p>なく、競技結果の栄誉は選手のものであって国のものではないとの指摘があります。</p> <p>学力テストで測定できるものは学力の一部に過ぎません。しかし、学校や自治体間の差が分かりやすい「数値」が示されれば、社会の学力観はその指標に引きずられます。</p> <p>このままでは、既存の価値観を打ち破る発想や技術革新が生まれる国になるとは到底思えないのは私だけではないと思います。</p>
教育長	<p>それでは、ただ今から、平成28年第9回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。</p> <p>初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。</p>
各委員	了承
教育長	それでは、会議録に御署名をお願いします。
各委員	署名
教育長	<p>次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。次の案件については、個人情報、公開することにより事務の公正な執行に支障が生じる案件、議会提出案件及び人事案件となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p> <p>報告事項④ 平成28年度第1回戸田市海外留学奨学生について</p> <p>報告事項⑤ 学校給食について</p> <p>議案第29号 平成28年度一般会計教育委員会関係9月補正予算(案)について</p> <p>議案第30号 全国及び県学力・学習状況調査の結果の公表の方向性について</p> <p>議案第31号 戸田市立図書館・郷土博物館協議会委員の委嘱について(案)</p>

各委員	異議なし
教育長	<p>それでは「報告事項④、報告事項⑤及び議案第29号から議案第31号」は、秘密会とすることに決定いたしました。</p>
教育長	<p>はじめに、「教育委員提案について」御報告いたします。先月の教育委員会にて委員より御提案のあった件について報告がございます。</p> <p>① 教職員の多忙化対策について</p> <p>② 経済教育について</p> <p>それでは、吉田委員から御提案のありました「教育委員提案① 教職員の多忙化対策について」を事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>①教職員の多忙化対策について報告します。</p> <p>現在、本市では、教員が子供と向き合う時間を確保するため、教職員の多忙化対策として、文部科学省委託事業である「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」に取り組んでおります。</p> <p>この事業を進めるに当たり、3つのワーキンググループ（WG）を組織して、それぞれWG会議を開催し、業務改善について検討しております。まだ検討の段階ですので、本日はこれまでの各WGで検討中の内容を報告いたします。</p> <p>各WGで話題となり、検討している内容を資料1ページの1から4の項目にまとめました。</p> <p>まず、1の勤務管理関係ですが、現在、教職員自身が出勤時刻と退勤時刻を記録して日々の在校時間を記録し、管理職が点検しております。手入力のため、在校時間を毎日記録するだけでも大きな負担感があるとのことで、9月からはICカードを使った方法を導入してまいります。</p> <p>また、子供と向き合う時間を作り出すには、業務改善を進めるとともに、教職員自身が働き方の意識を変えることが大切であるため、意識改革を図る手立てについても検討しております。他にも、ふれあいデーを</p>

月1回ではなく、各学校の工夫で増やすことはできないか、勤務時間外  
在校時間の多い教職員と少ない教職員の業務内容を分析し、業務の平準  
化を図ることについても検討しております。

次に、2の指導・授業関係ですが、市内小・中学校の先生方が効果的  
な教材やすぐれた授業の動画をいつでも、どこでも活用できるよう、共  
有システムの構築について検討を進めております。このことにより、教  
材研究が効率的に行えるようになるものと考えております。

また、小学校において、教科担任制や学年内での交換授業ができない  
か検討しております。担任が受け持つ教科が減ることで教材研究の対象  
教科が絞られ、効率化とより深い教材研究ができるようになることや、  
他クラスの授業を受け持つことで、より多くの目で児童を見ることができ、  
児童理解や生徒指導面での効果が期待できると考えております。

ファイリングシステムの市内共通化は、市内異動により学校が変わっ  
ても、文書管理の方法が統一されていることで、負担感の軽減、効率化  
が図られます。週日課の工夫は、現在も各学校で様々な工夫がされてい  
るところですが、市内に留まらず、他市や他県の工夫した日課を集め、  
各学校に紹介していきたいと考えております。

3の事務的業務関係中、今年度進めている学校への文書発出の電子化  
では、電子化により効率化が図られている面もありますが、毎日多くの  
電子文書が送られてくるため、内容確認に時間がかかってしまうという  
課題も生じておりますので、よりよい方法を今後も検討してまいります。  
その中で、教育委員会以外のところから学校への文書が数多く寄せられ  
ることや、様々な作品募集が最終的に学校に寄せられることから、この  
ような依頼の精選を図るよう、他の部局にも理解を求めてまいります。

また、本市では学校事務の共同実施を取り入れ、数校の事務職員がグ  
ループを作って事務の相互点検を行い、業務の効率化を図っております。  
国でも事務職員の業務内容の見直しを進める検討をしているとのことで  
すので、国の動向も注視し、学校事務の共同実施を活用し、事務職員に

	<p>任せることができる業務について検討を進めていきたいと考えております。</p> <p>また、業務コンサルタントの実施は、民間の業務改善ノウハウを生かすという視点で、今後、時間外勤務時間の多い教員を抽出し、業務コンサルタントがその教員の1日の勤務に張り付いて、業務改善を図るための分析を行っていく取組です。</p> <p>最後に、4の部活動関係ですが、部活休養日の設定について検討していきたいと考えております。しかし、本市で部活顧問をしている教員は、部活指導を負担とは感じていない教員が多いことや、保護者の部活動に寄せる期待が大きいことなど、休養日の設定には慎重な検討が必要だと考えております。今後、教員に対しては、部活動指導も含めた負担感についてのアンケート調査を実施し、本市の教職員の意識をしっかりと把握し、実態にあった改善を図りたいと考えております。</p> <p>これらはまだ検討段階ですが、実施可能なことから取り入れ、教職員の多忙化対策を推進するとともに、教員が子供と向き合える時間を作ってまいりたいと考えております。</p> <p>また、資料にはございませんが、戸田市独自で各学校に配置している市費非常勤職員の存在も教職員の負担軽減に大きな役割を果たしております。今後も適切に配置できるよう努めてまいります。</p>
教育長	何か御質問等がありましたら伺います。
委員	数値目標はたてないのですか。例えば、在校時間を何時間までに抑えるなどの目標をたて、その目標に向けて施策を行えばよいのではないのでしょうか。
事務局	数値目標につきましては、どのような数値が適正か、どのような項目について目標を設定したらよいのか、今後検討したいと思います。
教育長	可能であれば、何らかの量的・質的なエビデンスを示さなければいけないと思います。難しいとは思いますが、それを検討することも負担軽

	減につながっていくのではないかと考えます。
委員	部活休養日の設定について検討するとありますが、わが国の場合、皆さんが部活動に対して熱心なので、なかなか難しいのではないかと思います。
教育長	部活動について、既に何か検討していますか。
事務局	ワーキンググループの中で、平日に1日と土日のどちらかを休養日としたらどうかという意見が出ておりますが、実際には部活顧問や保護者の期待を考えると、週2日の休養日の設定には様々な意見があるかと思えます。  また、教職員の多忙化対策、負担軽減という観点で検討していますが、部活動については子供たちの健康面という観点からも検討しなければならないと思います。
委員	保護者の方からお話を伺うと、先生も熱心に指導してくださっているので土日も頑張してほしいという意見もあり、その思いと負担軽減は相反することなので、とても難しい問題です。顧問の先生も負担に思っている方もいればそうでない方もいるのではないかと思います。
委員	費用がかかるかもしれませんが、外部人材を検討していく必要もあるもではないかと思います。
事務局	現時点でもかなり入っていただいておりますが、更なる活用については、今後の課題でもあります。
委員	そもそも、なぜそんなに忙しくなってしまったのでしょうか。目的意識を持ち、何が必要で何が不要なのか、教育委員会としてガイドラインを作る必要があるのではないのでしょうか。
教育長	欧米に比べて日本の学校教育のよいところは何かというと、総合的に色々と指導していることだと言われております。欧米では部活や生徒指導などは行わず、授業に専念しているので、日本の教員ほど負担感を感じ

	<p>ていないという調査結果が出ています。</p> <p>総合的に指導を行い、教育基本法で規定される人格の完成を目指すという日本の教育のあり方が欧米で評価されているところであり、その点に対して抜本的に対策を打てないのが現状だと思います。</p> <p>しかし、委員御発言のとおり、何かしらのガイドラインは必要だと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、他に質問等がないようですので、次に、仙波委員から御提案のありました「教育委員提案② 経済教育について」を事務局より説明願います。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>②経済教育について報告します。</p> <p>先月、元中央教育審議会委員であり、CEEジャパン代表理事専務の中許善弘様に本市教育センターにお越しいただき、ワークショップ型の経済教育の研修を指導主事が実体験させていただくとともに、先日は、今後の経済教育の在り方や戸田市での取組推進について打ち合わせを行いました。CEE (Council for Economic Education) とは、世界最大の教員向け経済教育団体であり、CEEジャパンは、その日本の組織です。</p> <p>人工知能が様々な職業を代替していく時代に向かう中、子供たちが必然的に「選択」や「意思決定」を求められる学習機会を与え、「考える習慣」と「質の高い選択ができる力」を身に付けることが必要です。CEEジャパンは、経済学とは、「環境がどのように変化しようとも、取るべき行動や進むべき進路について最適な選択（確固たる意思をもった選択）をするための極めて日常的な学び」であると捉え、教員向けの経済教育プログラムを開発しています。</p> <p>教員が経済の働きと社会の仕組みに関する知識を身に付けることにより、学校での指導内容が社会とどのように結び付いていくのかを意識できるようになり、現在、国で検討が進められている学習指導要領の改訂</p>



	<p>の柱である「社会に開かれた教育課程」の実現にもつながるものと考えられます。</p> <p>そのため、戸田市の教員がCEEジャパンから経済教育ワークショップを通じた研修を受けることにより、教員の経済的リテラシーの向上を図りたいと考えており、その実施方法等について詳細な検討を進めているところです。</p> <p>今後も、戸田市の子供たちが未来を強く生き抜ける力を育成するために、教育委員会としてできることを積極的に検討してまいります。</p>
教 育 長	何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	まだすべて理解できていないので、再度、経済教育とは何か教えてください。
教 育 長	青山学院大学とCEEジャパンが包括協定を締結されていますので、仙波委員からぜひ解説をお願いします。
委 員	<p>経済学という言葉が出てくるのでわかりにくいのですが、経済教育は市民教育の一環です。人は、普段の暮らしの様々な場面で選択を求められますが、どのような選択をしたらよいか、また、最適な選択のためには、子供の頃からどう学んだらよいか教えるのが経済教育の概念です。</p> <p>比較対象の中で、どれが効率的か、合理的か、公共の福祉につながるのか学ぶのが経済学であり、選択することには経済的な側面があるため、経済学とつながるのです。</p> <p>様々な状況を想定したうえで、その中で自分がどう意思決定するかが「activity (活動)」であり、様々な仮想の中での経験を通じて意思決定を学び、社会にどのように規則化していったらよいか、関係をどのように築いていったらよいか学び取ってもらうのがねらいです。</p>
委 員	なぜ経済教育なのだろうと思っていたのですが、今のお話を聞いてよくわかりました。まさに新しい学びや生き抜く力につながっていくのですね。

委 員	費用を無視して選択はできないので、費用対効果の考え方にもつながりますね。
教 育 長	<p>教育にはコストパフォーマンスの考えが馴染まないと言われますが、「教育は未来への投資である」と言って効果検証を後手にし施策を進めてよいのかと問題意識を持っています。</p> <p>また、日本の子供たちの自己肯定感が低いのは、PISAの調査でも明らかですが、教員の自己肯定感も低いという調査結果もあります。CEEジャパンの中許氏の言葉で感銘を受けたのは、この経済教育を進めることにより、教員の教えていることが、子供たちが将来世の中に出てどのように役に立つか可視化されることにより、教員の自己肯定感の向上につながるということでした。本市の教育が抱えている課題や子供たちの未来に向けた教育を考えた時、この経済教育を導入すべきであると考えた次第です。</p>
委 員	戸田市の教育改革に当たり、様々なことを始めたと感じていたのですが、やっとひとつにつながっていることが理解できました。
教 育 長	様々な施策を行うことで、これまでとは異なる新しい考え方を導き出すことを目指しています。目的が見えないと不安に感じるとお思いますので、様々な施策は何のためにやるのかをはっきりさせ、皆さんに理解していただけるよう努力いたします。
教 育 長	<p>他に御質問等がないようでしたら、続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして6件の報告がございます。</p> <p>① 戸田市サイエンスフェスティバル2016～子ども大学とだ～の結果について</p> <p>② 授業がわかる調査について</p> <p>③ 埼玉県学力・学習状況調査について</p> <p>④ 平成28年度第1回戸田市海外留学奨学生について</p> <p>⑤ 学校給食について</p>

	<p>⑥ その他</p> <p>詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了したのちに伺います。</p>
<p>事務局</p>	<p>①戸田市サイエンスフェスティバル 2016～子ども大学とだ～の結果について報告します。</p> <p>去る7月22日（金）に芦原小学校を会場として実施されたサイエンスフェスティバルには、児童生徒・保護者823名の参加がありました。</p> <p>このサイエンスフェスティバルは、児童生徒が観察・実験や自然体験、科学的な体験を通して理科の楽しさを味わい、学習意欲の向上を図ることを目的としています。資料の写真は各ブースの様子です。親子で参加している方が多く、保護者が児童生徒の体験を見守っている様子も多く見られました。</p> <p>また、次期学習指導要領にも入ってくるプログラミング体験ができるブースもあり、今後の戸田市の教育に積極的に導入していくことも考えています。</p> <p>参加スタッフは、戸田市理科部会の教員、教員ボランティア及び理科支援員の合計43名で、事前の準備を含め彼らの貴重な研修の場にもなりました。</p>
<p>事務局</p>	<p>②授業がわかる調査について報告します。</p> <p>本調査に当たり、本市においては、授業の内容がわかる児童生徒の割合及び授業への取組の意欲がある児童生徒の割合の目標値を、小学校で90%、中学校で80%に設定しております。</p> <p>全体的な状況につきましては、授業の理解度について、よくわかる、だいたいわかると回答した児童生徒の割合は、平均すると小学校89%、中学校77%と昨年から1ポイント向上しております。教科別では小学校の国語で90%、理科で92%、中学校の国語で85%、社会で80%</p>

	<p>と目標値に達している教科もあります。</p> <p>また、授業への取組の意欲については、小学校の全教科平均が89%、中学校の全教科平均が82%で昨年とほぼ同様の結果でした。</p> <p>なお、小学校では3教科で目標値の90%、中学校では7教科で目標値の80%を上回っております。</p> <p>資料5ページから9ページまでは各教科の結果です。</p> <p>全体を通じて目標が達成できるよう、今後も研修や学校訪問での指導などを通じて、各教員の授業力を高めていきたいと考えております。</p>
<p>事務局</p>	<p>③埼玉県学力・学習状況調査について報告します。</p> <p>先月の定例会で説明した本件につきまして、詳細について改めて説明いたします。</p> <p>埼玉県学力・学習状況調査について、今回県が一番重視しているのは、昨年度の結果から児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びたのかということを示すことです。</p> <p>そこで、資料の個人結果票サンプルを御覧ください。</p> <p>学力のレベルを、学年ごとに7つのレベルで表しています。資料のサンプルは6年生のもので、6年生のレベルはレベル3からレベル9とされています。レベルの説明として、国語や算数における「それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例」が示されています。「正解できる」とは、約70%の確率でそのレベルの問題に正解できることを示しています。</p> <p>学力の変化については、サンプルの2ページ及び3ページを御覧ください。サンプルの2ページの国語では、小学校5年生でレベル4の上だったのが、小学校6年生ではレベル6の中まで伸びています。また、サンプルの3ページの算数では、小学校5年生でレベル6の中だったのが、小学校6年生ではレベル6の上まで伸びています。</p>

	<p>このように、わずかな伸びも各レベルを3層に区切ることにより、スモールステップの変化が伝わるようにしているそうです。これまでにない新しい学力の見せ方です。児童生徒一人一人の学力の状況がどのように変化しているかという観点から御覧ください。</p> <p>また、学力の変化の欄の下には、学習に関するアドバイスがあり、現在の学力の状況・学習習慣や今後の学習のアドバイスについて記載されています。このアドバイスを参考に、伸びを認めるコメントと今後さらに学力を伸ばすためにどのような学習に力を入れていくとよいのか、児童生徒にアドバイスするよう教員に指導しております。また、前回と学力レベルの位置が同じだったり、逆に下がったりした場合は、子供たちの現状や要望に応じて面談などを行い、子供の状況を判断して継続的な見届けを行うよう県から指示されております。</p> <p>さらにその下段には、教科の領域等別正答率や県全体の正答率分布も記載されております。</p> <p>最終ページには、「規律ある態度」の達成目標について、「よくできる」「だいたいよくできる」児童生徒の回答状況を☆印で表しています。最後に、「ご家庭へのメッセージ」欄もあり、自由記述欄を使って、家庭からの一言をお願いしている学校もあります。</p>
教育長	次に⑥その他ですが、事務局より何かございますか。
事務局	特になし
教育長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教育長	報告事項①のサイエンスフェスティバルについて、昨年度の参加人数より今年度の参加人数が少なかった点について、どのように考えていますか。
事務局	今年度は昨年度より講座を増やして実施したのですが、当日の天気がいにくの雨であったため、参加者数が少なかったのではないかと思います。

	ます。もう少し分析したいと考えております。
委員	報告事項②の授業がわかる調査について、「授業の内容がわかる」と「授業に進んで取り組んでいる」と答えた割合に比べて、「授業が楽しい」と答えた割合が少ないのが気になります。
事務局	アクティブ・ラーニングを進めることによって、わかる、楽しい授業を目指したいと考えております。
委員	授業が楽しいとはどのようなことでしょうか。
事務局	楽しいとは、面白おかしいことではなく、関心があるか、興味があるかということを知りたいのですが、興味・関心という言葉が小学校4年生では難しいと思われるので、「楽しいか」と聞いています。  時代の変化に伴い、質問の内容も変えていく必要もあるかもしれません。
教育長	それでは、他に質問等がないようですので、次に、次第の6その他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。
事務局	次回、教育委員会定例会の日程ですが、9月21日（水）午前9時30分からの開催について、お伺いいたします。
教育長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。
各委員	了承
教育長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次に、その他ですが、事務局から何かございますか。
事務局	特になし
教育長	来月の教育委員提案のテーマについて委員から何かございますか。
委員	小中一貫型小学校・中学校の設立について、先日説明会を開催したと

	のことですが、その後の設立準備状況について聞かせてください。
事務局	承知いたしました。
委員	スポーツに限らず、吹奏楽等で県大会以上に出場するなど、とだっ子が活躍しているとのことですが、全国大会等の結果を教えてください。
事務局	承知いたしました。
委員	表彰規定の見直しを行うとのことでしたが、その後どうなりましたでしょうか。優れた教職員や関係者への表彰を充実させていただきたいと思えます。  また、今日も御報告を頂きましたが、チーム学校の進捗状況について随時報告をお願いします。
事務局	承知いたしました。
教育長	それでは、「報告事項④、報告事項⑤及び議案第29号から議案第31号」を議題といたします。秘密会とすることに決定しておりますので、説明員で議案に関係する職員以外は退席願います。
	<b>【関係者以外の退席を確認後、報告第4号及び報告第5号を報告】</b>
教育長	次に、「議案第29号 平成28年度一般会計教育委員会関係9月補正予算（案）について」を事務局より説明願います。
事務局	平成28年度一般会計教育委員会関係9月補正予算（案）につきまして説明いたします。  歳入につきましては次の3点です。  まず、小学校費及び中学校費補助金の学校施設環境改善交付金につきましては、東日本大震災復興特別会計が終了し、交付金が不採択になったこと及び当該交付金に係る建築計画において、増額申請が認められなかったことに伴い、減額補正するものです。

	<p>次に、埼玉県教育委員会が策定する英語教育改善プランを推進するため、本市が県から埼玉県英語教育強化推進事業の委託を受け、本事業委託金20万円を増額補正するものです。</p> <p>また、市債につきましては、契約差金が生じたことに伴い、減額補正するものです。</p> <p>歳出につきましては、次の4点です。</p> <p>まず、就学援助事業について、マイナンバー制度対応において、教育委員会用中間サーバの総合運用テストに対応支援が必要となったことに伴い、委託料を増額補正するものです。</p> <p>次に、研究・研修事業について、埼玉県英語教育強化推進事業の受託に伴い、英語教育の改善を図るために、大学の教授など講師を招聘するための報償費や英語教育に係る教材や資料を作成するための消耗品費を増額補正するものです。</p> <p>次に、小学校及び中学校施設整備事業について、契約差金が生じたことに伴い、工事請負費を減額補正するものです。</p> <p>また、少年自然の家管理運営事業について、除雪作業車購入に伴い、備品購入費を増額補正するものです。</p>
教 育 長	以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	契約差金の額が大きいのと思いますが、なぜそんなに差が出てしまうのでしょうか。
事 務 局	予算積算時期が10月であり、その後に修繕の詳細を決定するため、予算額と実際の設計金額に差が生じてしまいます。
教 育 長	それでは、他に質問等がないようですので、打ち切ります。議案第29号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。
委 員	異議なし



教 育 長	異議なしと認め、議案第 29 号は提案内容のとおり議決いたします。
教 育 長	次に、「議案第 30 号 全国及び県学力・学習状況調査の結果の公表の方向性について」を事務局より説明願います。
事 務 局	<p>埼玉県学力・学習状況調査と全国学力・学習状況調査の公表について本市の方向性を御説明いたします。なお、全国学力・学習状況調査の本市の結果については、昨日、国から送付されたところです。結果がまとまり次第、報告いたします。</p> <p>教育政策室では、全国と県の調査の公表方法について、慎重に検討を進めてまいりました。個々の学校の数値を公表することについては、保護者や市民に説明責任を果たすことができるメリットがある一方で、学校の序列化につながったり、過度な競争を煽ったりする恐れがあること、また、学力の中の特定の一部である調査結果のみで、学校の教育活動全体が評価され、児童生徒の学習意欲や教員の指導に対する意欲が低下すること、さらには、これまで築き上げてきた学校・家庭・地域の協力体制が崩れるなどの懸念があります。加えて、調査の正答率を上げることにのみ執着し、教育の重要な柱である徳育や体育の軽視につながる恐れがあるなど、多くのデメリットが考えられます。これらのことを総合的に判断し、公表につきましては次のとおりとしたいと考えております。</p> <p>1 本市の結果につきましては、今まで通り、市全体の数値と分析結果を併せて教育委員会のホームページにおいて、結果概要を公表します。</p> <p>2 学校毎の結果を公表することにつきましては、先程述べましたとおり様々なデメリットが懸念されますので、学校毎の数値の公表は行いません。ただし、各校の分析結果や課題、改善策などにつきましては、調査の結果も踏まえ、各校における取組をホームページで公表します。</p> <p>3 学校が自校の結果を公表することにつきましては、学校の判断でこれまでも可能となっておりました。公表する際は、分析結果や課題、改善策を併せて学校だよりやホームページ等で示していくよう指導してま</p>

	いりたいと考えております。
教 育 長	以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教 育 長	それでは、特に質問等がないようですので、打ち切ります。議案第30号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。
委 員	異議なし
教 育 長	異議なしと認め、議案第30号は提案内容のとおり議決いたします。
	<b>【議案第31号を議決し、閉会】</b>